

群馬大学国際教育・研究センター論集第12号別刷

2013年3月

語りの終結部の言語的特徴

—— 日本語母語話者／非母語話者による4コマ漫画の内容を伝える語りから ——

俵 山 雄 司

〔研究論文〕

語りの終結部の言語的特徴

—— 日本語母語話者／非母語話者による4コマ漫画の内容を伝える語りから ——

俵 山 雄 司

要 旨

4コマ漫画の内容を説明する口頭の語りの談話の終結部において、日本語母語話者(NS)と非母語話者(NNS)がいかなる言語表現を用いて終結の意図を聞き手に伝えているかを探った。分析の結果、NSでは、①「何に使ったかっていうと」などの注釈節、②文末における「という」+ことがらを表す名詞の使用が顕著であった。前者はポイントとなる出来事に焦点を絞り、ストーリーを一点に向けて収束させるもの、後者は「という」によって語り手の存在を鮮明にしたうえで、ストーリー全体を一語に概念化するもので、両者とも終結を暗示する効果があることを述べた。そのほか、NS/NNS双方の談話で「そういうことなのだよ」など指示語を含む表現の使用が目立った。これは、語り手がメタレベルにおいてストーリーへ言及する立場へ移行したことを示すもので、やはり終結を暗示していると考えられる。

【キーワード】 語りの談話 終結部 注釈節 「という」+ことがらを表す名詞 指示語

1. はじめに

上級段階の日本語学習者に求められるスキルとして、長く複雑な構造の談話を適切に構成し、話の場に乗せていくということがある。しかし、実際は、個々の文法や語彙の使用が正確であっても、談話としてまとまりがなく、話し手の意図するところが、聞き手にうまく伝わらないことがある。以下は、4コマ漫画のストーリーについて、日本語学習者(F)が日本語母語話者(J)に対して語っている談話であるが、最後の部分で、やり取りの停滞が見られる。

- (1) 001 F えっと、男の人がボクシングをしている場面を見えています
002 J はい
003 F で、帰り道ですかね？その、帰り道で、スポーツ用具店でボクシンググローブを見えています

004 J うん

005 F で、それを買ってきてそれを友達の前で披露しています、で、友達がー、おまえも意外と男っぽいところがあるんだなって…………ほめています、でも彼は、その、ボクシンググローブを、えっと、なべつかみに使って…………使うために買ったよ、ようです

006 J はい

007 F はい

008 J ……………

(993029 J)¹⁾

上記の例では、学習者(F)は005Fで既にストーリーの説明を終えているが、それが母語話者(J)にうまく伝わらなかったためか、「はい」という言葉のやり取りの後、沈黙が訪れている。これは上記のFが談話が終結した(もしくは終結しようと意図している)ことをJにうまく伝えられなかったことに起因していると考えられる。

なお、この場では、語りの内容が4コマ漫画のストーリーだということは、聞き手も了解している。つまり、ストーリーの最後におかしみを伝える落ちがあることは聞き手も予測していることになる。それに関わらず、談話の終結を聞き手が感じ取れなかったということは、「落ち」の伝達にもなんらかの問題があったと考えられる。

本稿では、4コマ漫画のストーリーを説明している語りを資料として、その終結部において日本語母語話者(NS)がどのような言語要素を用いて談話終結の意図、そして漫画の落ちを聞き手に伝えているのかを探る。さらにそれを、日本語非母語話者(NNS)の語りと比較することで、その談話にどのような特徴があるのかについても論じる。

2. 分析資料

分析の資料として用いたのは、1編の4コマ漫画のストーリーについて語り手が、1人の聞き手に対して語ったもの40談話である²⁾。使用した4コマ漫画は、「あこがれ」(稿末資料参照)というタイトルのものである。語り手は、まず、調査者から与えられた4コマ漫画を見て内容を十分に理解した後に、これを見ながらそのストーリーを聞き手に向かって語っている。

40談話の内訳は、NSが語り手となっているものが20談話、NNSが語り手となっているものが20談話であり、いずれにおいても聞き手はNSである。語り手・聞き手の属性は、全員が大学院生・大学生・研究生である。NNSの国籍は、半数以上が中国で、それ以外はインド・韓国・トルコ等である。

本稿では談話の終結に着目するため、分析の対象は、データ中の4コマ目を説明している部分以降の語り手の発話とする。ただし、その中でも、以下の部分は分析の範囲から除く。

- ・一度語り終えた後、確認などのため話し手が再度同一の内容を語っている部分
- ・聞き手が語り手に対して質問を行った場合、その質問への返答
- ・語り手から聞き手への理解を確認する質問（「わかった?」「OK?」など）
- ・ストーリーについての感想・意見

どこからどこまでが分析の範囲に含まれるかの例を、以下の(2)を用いて示す。

- (2) 022 A で一、それを見てる家族の人が一、買ったのか、とか、お前も男っぽいとこあるんだな、見なおしたとか言って
- 023 B うん
- 024 A ……こう一、ほめてるらしいんだけども／／一
- 026 A 実は、こう男っぽいとか、じゃなく一?、彼は一、料理を一、する人一、のようで、鍋つかみとしてさいこう一、ということでした
- 027 B ……彼が使ってるの? 鍋つかみ
- 028 A 鍋つかみ?、彼が一、{笑い} 鍋つかみとして／／一、お鍋もってる
- 029 B /うん
- 030 A エプロンもして、(0.3) というストーリーです
- 031 B ……はい
- 032 A ……分かった?
- 033 B うん (993048 J)

ここで、4コマ目の説明をしている026Aは分析の対象だが、022A・024A（3コマ目の説明）と028A・030A（聞き手との質問のやり取り）は分析の対象とはしない。

3. 先行研究と本研究との関係

談話終結に関する従来の研究は、電話会話をデータとしたものと、自由会話をデータとしたものがある³⁾。このうち、前者は、相手と対面していない状態での会話であり、本稿のデータとは性質がかなり異なっていると言える。そのため、ここでは、自由会話をデータとした研究についてみていくことにする。

李(2000)は親しい友人同士での1対1での会話をデータとしている。ここでは、そこにあらわれる「過去に発生した出来事の報告」を取り出し、これを「物語」と定義して分析を展開している。李(2000)によれば、語り手が「物語」を終了するための言語行動として以下の6種類がある。

物語を終了するために語り手が行う言語行動

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 出来事の結末を示す | 2. 出来事発生当時の気持ちを示す |
| 3. 出来事・物語の終了を示す | 4. 出来事の題目を示す |
| 5. 出来事から得た結論を述べる | 6. 出来事に対する感想・意見を述べる |

(李 p.113)

これらは、ほとんどが発話の内容や機能による分類であるが、3の「出来事・物語の終了を示す」においては、言語表現がその指標となっている。具体的には、「そいで終わり」という標識や「うん」「そう」といった表現やその反復といった言語表現の使用によって出来事、そして「物語」の終了が示されていると述べられている。

中井(2003)は、初対面の1対1会話をデータとして、その中の話題終了部において使用されている言語要素を調査している。具体的な要素としては、「普通体」「語尾母音の引き伸ばし」「あいづち」「重複発話」「相互行為指標表現」「終助詞」「評価表現」「接続表現」⁴⁾などが多用されていたと述べている。

本研究では、語り手に4コマ漫画という視覚的な刺激を与えて、それが語りの材料となるため、先行研究とは異なり、語られる内容が一定である。これにより、さらに言語的特徴の共通点・相違点が明白にあらわれることが予想される。

また、語り手と聞き手の役割もほぼ固定されている。よって、語り手と聞き手の相互作用はあるが、より独話的な性質を持つデータであるといえる。

4. NSの語りの終結部において特徴的な言語要素

データを観察した結果、NSの語りの終結部において以下の要素の使用が、特徴的であった。

① 談話の焦点を聞き手に伝達する注釈節

例) 「何に使ったかといえば」「ボクシングのために使ったんじゃなくて」

② 「という」+ことがらを表す名詞

例) 「使っていたっていうお話です」「買ったという落ちになっています」

4.1 談話の焦点を聞き手に伝達する注釈節

NSの語りでは、「何に使ったかっていうと」のような疑問詞を用いて談話の焦点を絞るような注釈節⁵⁾が20例中の5例でみられたのに対し、NNSではわずか1例であった。

(3) 043A 彼は一何にいったい、使ったかっていうと、

044B ん

045A なべつかみに使ってしまった (973014 J)

- (4) 003A ところが、その男の子は、そのグローブをどういうふうに使ったかっていうと、
えー、なんか、エプロンをして、えー、鍋を持つのに、使ってるっていう、落
ち (993018 J)

また、これに類するものとして、「ボクシングを始めるためじゃなくて」のような、聞き手が予想しているであろう展開を否定することによって、談話が展開する選択肢を排除する注釈節も観察された。これも、NSが6例、NNSが2例と使用状況に差がみられた。

- (5) 012A えーっと、だけど、A君は、そのボクシングのグローブを、そのボクシング
の試合、と／／して、

013B /うん

014A 使うのではなくて

015B うん

016A 料理を使／／うときの鍋つかみ／／として使うことにして、いた、のが落ちです
(nin001)

- (6) 016A その後、台所に行って、そのボクシングのグラブをしたまま台所に行って

017B うん

018A あの、鍋つかみとしてそれ／／を使っていて

019B /はい

020A 結局ボクシングをしたいいために買ったんじゃないくて、鍋つかみとしていいな
と思って／／買った、という落ちにな／／っています (chi006)

両者は談話の焦点を聞き手に伝達するという点では共通している。このような注釈節が使用される背景として、語りにおいてストーリーは（原理的には）様々な方向へ展開していく可能性があるということがある。ここでは注釈節の使用によって、ストーリーのポイントとなる出来事に焦点を絞ったり、有力なほかの展開可能性を排除したりすることで、ストーリーを一点に向けて収束させ、終了を暗示していると考えられる。

また、この部分の語りは、出現する事物や生起する出来事を単純に報告するスタイルを逸脱しており、それが生起する出来事の予想からの逸脱、すなわち「落ち」の効果的な伝達に貢献していると思われる。

4.2 「という」+ことがらを表す名詞

NSでは、語りの終結部の最終発話の文末において、「…という話です」のような「という」を伴ったことがらを表す名詞が使用される傾向が顕著であった⁹⁾。NSでは、10例と半数以上の例で用いられていたが、NNSでは1例も観察されなかった。

- (7) 003A ところがー、その男の子はー、そのグローブをどういふふうに使ったかっていうとー、えー、なんか、エプロンをしてー、えー、鍋を持つのにー、使ってるっていう、落ち (993018 J)
- (8) 015A なんかグローブを鍋つかみとして使ってて {笑い}
016B うんうんうんうん
017A 鍋つかみとして最高とか／／言っているよね、という4コマ (993052 J)

またNSには(9)のような「という」のみが使用されている場合も1例みられた。この場合、「という」の後には「こと」「話」などの語を補うことが可能なため、これも上記に示した「という」+名詞の構造が元になっていると考えることができる。

- (9) 054A 鍋つかみ
055 ……
056A に／／(すごい) いいと思って
057B /使っちゃったの?
058A うん、買った、みたいな
059B あー
060A ことになってる、という (993007 J)

なお、日本語母語話者と上級日本語学習者の談話の特徴（特に接続表現）について分析した深川(2007)でも、インタビュー形式の談話において母語話者が、「という」に形式名詞「の」「こと」をつけて、前に述べたことをまとめている例が多く観察されたと述べている。本稿のデータでは、「の」「こと」以外にも多様な名詞が見られる点は異なるが、同様の現象を指摘していると思われる。

では、ストーリーの説明をこのような「という」+ことがらを表す名詞の形で終えることにはどんな効果があるのだろうか。

連体修飾節中の「という」について考察した大島(1991)は、「という」が介在する場合は「必ず言語による『表現』が問題になっている」と結論付けている。このことは、この種の連体修飾節では単に修飾節が主名詞の内容を補足的に説明しているだけでなく、言語を用いる表現主体の存在がそこに

色濃く含意されると解釈できる。つまり、この「という」を用いることによってそこまでストーリーの陰に隠れていた語り手の存在がより鮮明になり、聞き手をストーリーの中から、語り手と聞き手が実際に存在する会話の場へと引き戻すことになるのではないだろうか⁷⁾。

また、「という」に後続する「話」「落ち」「4コマ」「こと」などの名詞は、そこまでのストーリー全体を1つの名詞として概念化することで、それが「語り手」の手から離れ1つのモノ・コトとして客体化されたものと捉えられる。このストーリーの客体化は、語り手自身がストーリーから一定の距離をおき、もとの会話の場へ軸足を移しつつあることを示すものである。

なお、NNSでも、「という」を伴ってはいないものの、名詞で説明を終えている例が1つだけあった。

- (10) 006 F あの男の子はグローブを買った理由は、なべつかみーとして、使おうと買ったことです。
(993057 F)

ここでの名詞の使用は文頭の「理由は」と呼応してのものであり、構文的に必須のものである。この点でNSが文末で使用した名詞とは異なっている。

5. NS/NNS双方の語りの終結部において特徴的な言語要素

英語の語りを分析した Labov (1972) は、談話の終結 (coda) を構成する表現として、And that was that. のような表現を挙げている。これは指示語を含む、実質的な内容が希薄な発話といった特徴づけができる。李 (2000) が示した「そいで終わり」という表現もこれと同様の特徴を持っている。今回分析したデータにおいても類似の表現がNS・NNSを問わず観察された。

表1 NS/NNSにおける指示語を含む実質的な内容が希薄な発話

	NS	NNS
ソ系指示語系	そういうことなのだよ、それが落ち、それが落ちですね、それだけなんだけど [4]	そんな話、そういう漫画だったんです、そういうことです [3]
コ系指示語系	こんな感じで [1]	これで終わり [1]
以上系	以上です、以上でした [2]	以上です、以上です [2]
終わり系	おわり、おわりです [2]	これで終わり [1]
という系	というストーリーです [1]	ということです [1]

「以上です」「終わり」といった明らかに終結を示す表現のほかに指示語、特にソ系指示語を含む表現がよく用いられていることがわかる。

指示語の表現効果について、正保 (1981) は、ソは自分が関心を持っている領域の外にあるもので、アかコで指示できる条件が揃っていても客観的で冷静な指示を装う時に使うとし、コは話し手がそれ

に対して強い関心を寄せている時に使うと述べている。また、メイナード（2006）は、ソ系の指示表現は基本的に語り手がある距離を保つという態度を伝え、コ系の指示表現は基本的に語り手と内容が近いという意味を伝えると述べている。

これを、語りの談話という視点から見ると、ソ系指示語は語り手がストーリーの内容自体からは離れたところで、それを見ていることを表現していると思われる。

それに対して、コ系指示語は、語りの内容がまだ語り手の手元にあって、それについて影響力を行使する可能性があることを表明していると考えられる。以下の「これで終わり」のように、終わるといふ行為を遂行する文でソ系の使用がかなり不自然になることがその傍証となる。

- (11) 039 F このグローブを一、その、たべー、たべつかみ？
 040 J あー／／ {笑い}
 041 F ／として使った、として最高、と、かいてるのね
 042 F そのグローブを一、たべ、つかみに／／使った
 043 J ／うんうん
 044 F です、これで終わり、{笑い} わかりますか、 (993021 F)

ソ系とコ系のいずれが使用される場合でも、この種の表現の使用は、語り手がストーリーに没入した語りのスタイルから、メタレベルからストーリーに言及するスタイルに移行していることを表している。

なお、指示語を含んだ表現の、NS・NNSでの出現傾向は似通っているが、出現環境は若干異なっている。用例数が少ないため、はっきりしたことは言えないが、相手に終結の意図や落ちがうまく伝わらなかった場合の保険としてこの種の表現が用いられやすいという可能性を提起しておきたい。

次に示す(12)の例では、047の沈黙が、聞き手に対して落ちがうまく伝わっていないという印象につながり、それが語り手に指示語を含んだ表現の使用を促しているのかもしれない。また、主人公のセリフの引用で終わっている(13)や「という」のみで発話が終わっている(9)（前掲）など、動詞や名詞などの一般的な文末表現以外でストーリー説明が終わり、いわゆる「言い切り」の形式になっていない場合も、説明が終わったことを念押しするために、指示語を含んだ表現が用いられている可能性がある。

- (12) 043 A 彼は一何にいったい、使ったかっていうと、
 044 B ん
 045 A なべつかみに使ってしまった
 046 B んー {笑い}
 047 …………… ← 沈黙
 048 A そういうことなのだよ (973017 J)

- (13) 005A ね、家に持ってかえって、お父さんとお母さんが、「お父さんとお母さん、今、買ったんだよ」と見せて、で、お父さんとお母さんが「ほー？お前も男っほいじゃないか」つて
- 006B え、え、え
- 007A 言ったら、その男の子は、鍋つかみとして最高 {笑い}
- 008B (ねえ// {笑い}) あは、は、は、あー
- 009A /それ、それだけなんだけど (99k113J)

一方、NNSは、動詞文の言い切りの形ではっきりとストーリーを語り終えた後に、この種の表現を、あまり間を置かず続けている。

- (14) 014F まあ、熱いなべを
- 015J {笑//い}
- 016F /持つときに、まあ、やけどしないように、この厚い、(さぶ)を、買ったんですよ
- 017J {笑//い}
- 018F /そういうことです (JIN008)

6. 終結部の言語的特徴と語り手の立場

本稿で取り上げた語りの終結部の言語的特徴を、その使用で示される語り手の立場と効果との関係からまとめておく。

表2 語り終結部の言語的特徴と語り手の立場の対応関係

言語的特徴	語り手の立場	効果
焦点を伝達する注釈節	ストーリー内部で焦点を絞る/可能性を限定する	終結を暗示 落ちを効果的に伝達
「という」+ことがらを表す名詞	ストーリーとの境界で会話の場を意識させる	終結を暗示
指示語を含む表現 (実質的内容は希薄)	ストーリー外部でメタレベルから言及する	終結を暗示

このような言語的特徴は、NSの談話のほうがバラエティー豊かで、また複数の要素が重複して用いられていることも多かった。それに対して、NNSでは、このような特徴を全く、もしくはほとんど用いていない例が少なくなかった。このことが、冒頭に示したような、終結の意図や落ちの伝達の失敗につながっている可能性がある。

注

- 1) 例文の末尾にある英数字はデータの識別記号をあらわす。
- 2) データの約半数 (12例×2) は、筑波大学大学院地域研究研究科開設の「日本語構造論(2)」(担当: 砂川有里子教授)の授業内において受講者が採取・文字化したものである。それ以外は筆者が2006年から2007年にかけて採取したものである。
- 3) 電話会話をデータとした研究には、岡本(1991)、小野寺(1992)、熊取谷(1992)などがあるが、この種の研究は終結部の内部構造とそこにあらわれる発話内容・機能の解明に主眼があるため言語要素を扱う本稿とは分析の視点が異なっている。
- 4) 「相互行為指標表現」は「あの」「えっと」など相互行為に関連して用いられる表現、「評価表現」は形容詞・形容動詞・動詞・副詞などの形で実現する評価をあらわす表現のことを指している。
- 5) ここで疑問詞を含んだ注釈節として扱うものは、高橋(1999)が「自問自答形式の疑問表現」と呼んでいるもののうちの、「説明要求」に分類されるものである。高橋(1999)は、これと講義や論文といった「一方的な伝達形態」を持つジャンルとの親和性を指摘しているが、本稿でデータとした語りも、「一方的」という点では共通点がある。
- 6) 本稿の元になった口頭発表を前提として、鳥(2011)は絵本のストーリーを用いて、語りの冒頭部と終結部の表現的特徴について分析している。そこでは、母語話者はやはり「という」を伴ったことがらを表す名詞を多用していたと述べている。一方、非母語話者では、「～と思う」の使用が目立ったとしている。
- 7) 砂川(1988, 2003)が引用(構文)の意味を検討する際に提示した「場の二重性」の概念もここでの主張の後ろ盾になるものと思われる。「場の二重性」とは、引用には発話・思考の場と、それを再現する伝達の場という二つの場が関与しているという考え方である。この語りでは、「という」の前が発話・思考の場、その後は伝達の場と捉えられる。

参考文献

- 鳥 日哲 (2011) 「中国語を母語とする日本語学習者の『語り』の冒頭部と終結部における表現的特徴—日本語母語話者と比較して—」『一橋大学国際教育センター紀要』2, pp.23-35, 一橋大学国際教育センター。
- 大島資生 (1991) 「連体修飾構造に現れる『という』の機能について」『人文学報』225, pp.27-58, 東京都立大学人文学部国語学研究室。
- 岡本能里子 (1991) 「会話終結の談話分析」『東京国際大学論叢 商学部編』44, pp.117-133, 東京国際大学。
- 小野寺典子 (1992) 「エスノメソドロジーにおける電話会話の研究と日本語会話への応用」『日本語学』11-9, pp.26-38, 明治書院。
- 熊取谷哲夫 (1992) 「電話会話の開始と終結における『はい』と『もしもし』と『じゃ』の談話分析」『日本語学』11-9, pp.14-25, 明治書院。
- 正保 勇 (1981) 「『コソア』の体系」『日本語教育指導参考書 8 日本語の指示詞』pp.51-122, 国立国語研究所。
- 砂川有里子 (1988) 「引用文における場の二重性について」『日本語学』7-9, pp.14-29, 明治書院。
- 砂川有里子 (2003) 「第7章 話法における主観表現」北原保雄編『朝倉日本語講座 5 文法 I』pp.128-156, 朝倉書店。
- 泉子・K・メイナード (2006) 「指示表現の情意—語り手の視点ストラテジーとして」『日本語科学』19, pp.55-75, 国立国語研究所。
- 高橋淑郎 (1999) 「『自問自答形式の疑問表現』の性格」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』12, pp.55-76, 早稲田大学日本語研究教育センター。
- 中井陽子 (2003) 「初対面日本語会話の話題開始部/終了部において用いられる言語的要素」『早稲田大学日本語教育研究センター紀要』16, pp.71-95, 早稲田大学日本語教育研究センター。
- 深川美帆 (2007) 「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴—日本語母語話者と比較して—」『言語と文化』8,

pp.253-268, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻.

李 麗燕 (2000) 『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究 会話管理の観点から』くろしお出版.

William Labov, 1972 'The transformation of experience in narattive', Language in the Inner City: Studies in Black English Vernacular. pp.364-396. Oxford: Blackwell.

会話資料書記法

- ………… 一秒以上のポーズ
- ／／ 次の話者の「／」部分との発話の重なるの開始
- () 聞き取りにくい部分
- ? 上昇イントネーション
- / 前の話者の「／／」部分と重なっている発話の開始
- { } 非言語的な行動

稿末資料

植田まさし (1984) 『ほんにやらごっこ かりあげクン7』(双葉社発行) より



付記

本稿は、日本語文法学会第8回大会(2007年10月27・28日開催)のパネルセッション「語りのデータを用いた談話分析の可能性」における筆者の口頭発表(予稿集原稿)の内容をもとに、その後に判明した、もしくは公表された関連の研究を踏まえて加筆・修正を行ったものである。

Linguistic features of narrative endings :
Comparison of storytelling of four-frame comic strips
by native speakers with that by Japanese language learners

TAWARAYAMA Yuji

This paper examines the linguistic expressions used by native speakers (NS) and Japanese language learners (NNS) during the narrative endings of four-frame comic strips. According to the analysis, the linguistic features that appeared frequently in NS are conditional clauses such as *nan ni tsukatta katte iu to* and *toiu* + noun that represents thing in the sentence final. It appears that the former is used to conclude the story by focusing on important incidents, while the latter is used to represent the whole story into one word after clarifying the existence of the storyteller. Both have the effect of suggesting the end of the story. In addition, both NS and NNS used expressions including demonstratives such as *sou iu koto na noda yo* in ending the discourse. It is suggested that this usage shifts the position of the storyteller to the meta-level, which also suggests the end of the story.